

神によらない権威はない

ローマ人への手紙 13章 1-7節

はじめに

私たちの教会は、今年から月ごとのテーマを決めています。6月は「社会生活」となります。聖書によれば、私たち人間は、神様のかたちに造られ、神様に代わってこの世界を管理する使命を与えられています。そのために私たちは、家庭を形成し、仕事をするのです。そして私たちは、神様が造られたこの世界の中で、様々な人々と共に協力して、あらゆる文化を生み出していくのです。

私たちクリスチャンも、福音を伝え、教会を形成するだけでなく、文化を生み出し、社会を形成する使命を、神様から与えられているのです。

しかし日本のクリスチャン人口は、約1%です。そのため、私たちが社会生活をする時、多くの場合は未信者の人々と共に過ごします。学校の友達や先生、職場の同僚や上司、家庭の夫や両親が未信者の場合が多いです。また日本の政治家もほとんどが未信者です。それゆえ日本の社会の多くは、聖書の価値観とは違う原理で動いているのです。

私たちは、そのような社会の中で、イエス様を信じるクリスチャンとして、学校に通い、仕事をし、家庭を形成し、日本の国民として生きていかなければならないのです。そして未信者の人々と共に協力して、あらゆる文化を生み出し、社会を形成していくことを、神様から求められているのです。

今日は、私たちクリスチャンが社会生活をする上での基本的な姿勢を、聖書から学びたいと思います。

1. 上に立つ権威はすべて神によって立てられている

1節には、「**人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられているからです**」とあります。

聖書は、社会の中に存在している権威はすべて、神様によって立てられていると教えています。政治家も、学校の先生も、会社の上司も、親も、夫も、教会の長老も、すべて上に立つ権威を持つ人は、神様によって立てられていると聖書は教えています。

たとえそれが未信者であっても、です。未信者で上に立つ権威を持つ人々は、自分が神様によって立てられているとは考えていないと思います。しかし私たちクリスチャンは、上に立つ権威を持つ人々が、クリスチャンであっても未信者であっても、どんな人でも神様によって立てられていると信じ、そのように見ていかなければなりません。

しかも彼らを、私たちに「**益を与えるための、神のしもべ**」として見ていくのです。神様が私たちに益を与えるために、上に立つ権威を持つ人々を立ててくださった、神様は、上に立つ

権威を持つ人々を通して、私たちに益を与えてくださると見ていくのです。政治家も、学校の先生も、会社の上司も、親も、夫も、教会の長老も、神様が私たちに益を与えるために与えてくださった人々だと見ていくことが必要なのです。

私たちクリスチャンは、イエス様を信じる時に神様との交わりを回復します。そして世界を、神様を通して見るようになります。大自然を神様が造られた世界と見るようになります、すべての人間を神様のかたちに造られた尊い存在として見るようになります。そして社会の上に立つ権威を持つ人々をも、神様によって立てられた人、私たちに益を与えるための神様のしもべとして見るようになるのです。

イエス様を信じる時、私たちの何が変わるのでしょうか？その一つは、世界観や人生観が変わるのです。私たちは、イエス様を信じて神様との交わりを回復する時、世界や人間の見え方、人生に起こる出来事の見え方が変わります。すべてを聖書を通して、神様を通して見るようになるので、すべてが新しく見えるのです。

小坂忠というゴスペル歌手の「すべてが美しい」という曲に、このような歌詞があります。「**目に写るものすべてが今までとは違う。歩きなれたこの通りでさえ。ピルの谷間を行き交う見知らぬ顔も、とても親しい人のようだ。すべてが美しい、今までとは違う。すべてが美しい、今までとは違う。愛を知ってから、イエスに出会ってから、この心が変わってから**」。イエス様を信じて新しく生まれた人は、世界や人間や、私たちの人生に起こるすべての出来事も、今までとは違う新しいもの、神様の愛と恵みに満ちたものとして見えてくるのです。

2. 主のゆえに、すべての上に立つ権威に従う

聖書は、社会の中にあるすべての上に立つ権威を持つ人々は、神様によって立てられた人、私たちに益を与えるための神様のしもべとして見るべきだと教えています。政治家も、学校の先生も、会社の上司も、親も、夫も、教会の長老も。たとえそれが未信者であっても、です。それらの人々は、神様によって立てられた人、神様のしもべであるがゆえに、私たちはそれらの人々に従うべきなのです。

2 節にはこうあります。「**権威に反抗する者は、神の定めに従うのです。逆らう者は自分の身にさばきを招きます**」。私たちがもしそれらの人々に従わないなら、それは神様に逆らうこととなります。神様によって立てられた神様のしもべに従わないことは、神様御自身に従わないことになるからです。そして、私たちはそれらの人々から罰を受けることとなります。彼らは、神様に代わって私たちを裁くのです。

私たちクリスチャンにとって、従うべき第一の方は主なる神様です。主なる神様に従うからこそ、すべての上に立つ権威に従うのです。主なる神様が、すべての上に立つ権威に従うべきだと言われたから、従うのです。つまり私たちは、主のゆえに、すべての上に立つ権威に従うのです。

しかし、上に立つ権威を持つ人々は、必ずしも従いやしい人たちばかりではありません。意地悪な人、気難しい人も沢山いるのです。しかしペテロの手紙には、こうあります。「**しも**

べたちよ、敬意を込めて主人に従いなさい。善良で優しい主人だけでなく、意地悪な主人にも従いなさい」(1ペテロ 2:18)。またこうもあります。「妻たちよ、自分の夫に従いなさい。たとえ、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって神のものとされるためです」(1ペテロ 3:1)。私たちは、従いやすい人ばかりではなく、従い難い人をも、主のゆえに従うべきだと言われています。

ペテロの手紙には、こうもあります。「もしだれかが不当な苦しみを受けながら、神の御前における良心のゆえに悲しみに耐えるなら、それは神に喜ばれることです…善を行なって苦しみを受け、それを耐え忍ぶなら、それは神の御前に喜ばれることです」(1ペテロ 2:19-20)。従い難い人にも忍耐して、主のゆえに従うことは、神様に喜ばれることだと聖書は教えます。その時に私たちは、イエス様の姿を思い出すべきだと言われます。「キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残された。キリストは罪を犯したことがなく、その口には欺きもなかった。ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、誓すことをせず、正しくさばかれる方にお任せになった」(1ペテロ 2:21-23)。私たちは、すべての上に立つ権威に、主のゆえに従わなければなりません。しかしそれは、必ずしも簡単なことではありません。時には、苦しみや悲しみが伴うものです。しかしその時にこそ、私たちは、父なる神様に従って、十字架の道を耐え忍んだイエス様の姿を思い出すべきだと言われるのです。

イエス様を信じる私たちクリスチャンは、十字架の道を耐え忍んだイエス様の姿を見上げて、主のゆえに忍耐して、すべての上に立つ権威に従っていくのです。それこそが神様に喜ばれる道なのです。

3. 人に従うより、神に従うべきです

しかし私たちは、「盲目的に」上に立つ権威に従うべきではありません。上に立つ権威を持つ人々は、罪の性質を持つ人間ですから、神様のしもべとしての権威を逸脱して、暴走する危険性があります。上に立つ権威を持つ人々は、神様への恐れを忘れ、まるで自分が神様であるかのように権威を振りかざす時があります。そして、私たちの心まで支配しようとする時があります。現代社会は、この権威の問題をはき違えて、パワハラ、セクハラ、モラハラ、虐待などの問題が起こります。これらの問題は、一般の社会の中だけでなく、教会の中にも起こりうる問題です。

先ほども言いましたように、私たちが従うべき第一の方は、主なる神様です。私たちは、盲目的に上に立つ権威に従うべきではありません。あくまでも主のゆえに従うのです。ですから、もし上に立つ権威を持つ人々が、神様のしもべとして権威を逸脱して、自分が神様であるかのように盲目的に従うことを求めてきた場合は、決して従うべきではありません。たとえば、神様よりも自分に従うことを求めてきた場合、神様の律法を破り、罪を犯すようなことを求めてきた場合です。例えば、偶像を拝むように求めてきたり、安息日を破るように求めてきたり、性的な罪を求めてきたり、嘘をつくことを求めてきたり、人を殺したり盗むように求めてきたりする場合は、決して従ってはなりません。私たちは、主のゆえに抵抗し

なければなりません。

使徒の働き 5：29 には、「**人に従うより、神に従うべきです**」とあります。私たちは、神様に従うゆえに、上に立つ権威に従うのです。もし神様に従うことと、上に立つ権威に従うことが対立した場合は、迷いなく神様に従うべきです。そして上に立つ権威が、神様のしもべとしての権威を逸脱して、自分が神様であるかのように盲目的に従うことを求め、神様よりも自分に従うことを求めてきた場合、私たちはしっかりと抵抗しなければなりません。抵抗することも、私たちクリスチャンにとって大切な務めです。私たちは、自分の心まで上に立つ権威に委ねて、支配されることを許してはなりません。私たちの心の主人は、あくまでも主なる神様だけです。

4. 上に立つ権威は、神様と人々に仕える者として

私たちは、ただ従うだけでなく、ある場面では上に立つ権威を持つ者となります。例えば、親であったり、夫であったり、学校の先生であったり、会社の上司であったり、教会の長老や牧師であったりします。

私たちが上に立つ権威を持つ者となった場合、常に危険性があることを覚えていなければなりません。私たちは、たとえクリスチャンであっても、罪の性質を完全に拭えない存在です。それゆえ、権威を振りかざして盲目的に人々を服従させ、人々の心まで支配しようとする誘惑に陥ることもあるのです。私たちはたとえ親であっても子どもの心まで支配してはなりません。夫であっても妻の心まで支配してはなりません。学校の先生であっても生徒の心まで、また会社の上司であっても部下の心まで支配してはなりません。また教会の長老や牧師であっても、信徒の心まで支配してはなりません。人の心は、神様の領域です。人の心を支配することが許されるのは、神様だけです。私たちは、そのことを決して忘れてはならないのです。

上に立つ権威を持つ者は、あくまでも「神様のしもべ」です。「しもべ」というのは、「仕える者」という意味です。上に立つ権威を持つ人は、神様と人々に仕える者でなければなりません。イエス様も言われました。「**あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、皆に仕える者になりなさい。あなたがたの間で先頭に立ちたいと思う者は、皆のしもべになりなさい。人の子も、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのです**」(マルコ 10:43-45)。上に立つ権威を持つ者は誰でも、イエス様のようにでなければなりません。イエス様のように、人々に仕える者でなければなりません。

おわりに

最後に、私たちクリスチャンの社会生活の中で大切なもう一つのことを加えます。それは、上に立つ権威を持つ人々のために「祈る」ということです。1 テモテ 2：1 には、「**すべての人のために、王たちと高い地位にあるすべての人のために願い、祈り、とりなし、感謝をささげない。それは、私たちがいつも敬虔で品位を保ち、平安で落ち着いた生活を送るためです。そのような祈り**

は、私たちの救い主である神の御前において良いことであり、喜ばれることです」。 私たちの上に立つ権威を持つ人々は、必ずしも良い人ばかりではありません。意地悪な人、気難しい人も沢山います。そのような人々に従うことは、決して簡単なことではありません。しかし私たちは、不平不満を言う前に、まず神様に祈らなければなりません。上に立つ権威を持つ人々が、神様を恐れ、神様のしもべとしての権威を逸脱することがないように、また神様の律法を破り、罪を犯すようなことを求めることがないように、また神様が上に立つ権威を持つ人々を祝福し、彼らを通して私たちに益が与えられ、社会の中であらゆる文化が生み出されていくように。

私たちの社会生活の中では、従うことが難しいことも沢山あります。従うべきか抵抗すべきかの知恵が必要な時もあります。しかし私たちクリスチャンは、何よりも「祈ること」から始めたいと思います。祈らずに感情に任せて抵抗したり、祈らずに抵抗せずに迎合したりせずに、まず神様の御前に祈り、知恵を与えてくださること、必要な場合には神様が御手を動かしてくださることを求めています。

天におられる私たちの主なる神様。

あなたは私たちを御自身のかたちに造り、あなたに代わってこの地上を管理し、あらゆる文化を生み出していく使命を与えられました。私たちクリスチャンは、地の塩、世の光として社会に遣わされ、未信者の人々と共に、この地上であらゆる文化を生み出していきます。

あなたは社会の中に、家庭、学校、会社、国家などを形成し、ある人々に上に立つ権威を与えられました。私たちは、すべての上に立つ権威を、神様によって立てられている者として信じ、従うことができますように。たとえ従うことに困難な時でも、祈りつつ、イエス様を見上げて、忍耐して従うことができますように。また上に立つ権威が、神様のしもべとしての権威に逸脱して神様のように振る舞い、私たちの心まで支配しようとする時は、主のゆえにしっかりと抵抗することができますように。

また私たちが上に立つ権威を与えられた場合には、イエス様のように神様と人々に仕える者となることができますように。権威を振りかざして人々を支配しようとする誘惑からお守りください。

この祈りを、天においても地においても、すべての権威が与えられているイエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン